

教育課程編成・実施の方針

国文学科

国文学科では、4つの理念に基づきカリキュラムを編成している。第一に、日本語の特質・変遷を深く学び、第二に、古典から現代に至る日本文学を読解・鑑賞・批判し、第三に、小説・童話・短歌・詩等の創作や表現演習に主体的に取り組み、第四に、文化・思想、メディア等、隣接する分野を学ぶことである。これらの科目群を必修、選択必修、自由選択の組み合わせにより、比較的自由に広く、深く選択させ、包括的な教養を身につけさせようとしている。特に、1年次には希望に沿って選択させた演習科目、2年次には卒業論文・卒業制作等を重視しており、いずれも約10人～20人の少人数での徹底した発表・討議、指導の体制を取り、読解力、問題解決能力、プレゼンテーション力の育成を図っている。

英文学科

英文学科には(1)英文学専攻と(2)英語学専攻の二つの専攻がある。両専攻とも各種の「主題科目」等の教養科目で視野を広げる一方、英語のネイティブ・スピーカーが担当する英語教育プログラムを中心に少人数の英語教育を行い、「読む」「書く」「話す」「聞く」という高度な英語運用能力を育成する。さらに(1)では英米文学、(2)では英語学、英米文化、異文化コミュニケーション、比較文化を中心とする多様な授業が配置されているので、英語圏諸国の様々な側面を学ぶことができる。2年次の個別指導ゼミでは各人の関心あるテーマをさらに掘り下げて学習できるよう指導している。

家政学科

家政学科では、生活を総合して考える5科目を必修とし、1年次は「生活論演習」と「生活実験実習」で家政学の諸分野を具体的に理解させ、2年次には「生活原論」「生活人間論」によって生活と人間をより深く探求し、各人の学習効果を、卒業研究「家政学研究」として集大成している。選択科目は、個々の学生の希望や目標に応じた学習が実現できるように、(生活と社会システム)(生活と環境)(生活と文化)という3つの系に区分されているが、総合性と専門性の両面から、真に豊かな生活を実現するための知識と技術を習得させるため、各分野の科目の中から履修する科目を複数薦めている。また、家政学研究の各科目とその関連科目を示し、学生が興味を持つテーマについて、3つの系を縦横にクロスしながら問題点を深く掘り下げるよう指導している。

教養学科

教養学科では幅広く、しかも深く学ばせるために、講義と少人数の演習を用意している。講義科目は、「思想と文化」(日本史・西洋史や文化史・美術史・思想史、倫理学・比較文化論・文化人類学など)、「社会と人間形成」(法律学・経済学・政治学・国際関係論・心理学・社会学など)、「科学と生活環境」(科学文化史・生態

学・人文地理学・環境科学・情報科学など)と、3分野の多様な選択科目からなる。演習は、入門的な「教養演習」を半年、それぞれの専門演習を1年半選択し、卒業論文は全員必須である。英語やその他の外国語、情報処理も重視している。講義と演習の関連をもたせるよう履修指導している。

芸術学科

芸術学科の教育方針を実現するために、多くの美術系の大学とは異なり入学時に専攻を決めない、独自のカリキュラムを定めている。少人数教育も大きな特色である。内容は1年生前期に実技科目の絵画、彫刻、デザイン、織をすべて学んだ上で、後期にそのうちの2科目を選択する。理論科目は1年生で芸術人間学、美術史、芸術論演習(ゼミ)を通年で学ぶ。こうして実技と理論双方の基本的知識を身につけてから、2年生になって卒業制作または卒業論文の1科目を選択して取り組むことになる。また芸術を幅広い視点から捉えるために、建築論や映像論など選択必修科目を多数設けている。2年間の成果は2年生の3月に行われる卒業展で披露される。

現代教養学科日本専攻

現代教養学科では、現代に不可欠な教養を学ぶために、学科共通の「現代教養コア科目」を設置すると共に、各専攻に専門教育科目を設置している。

「現代教養コア科目」には、現代に生きる女性の課題を知り、共生のエートスを獲得し、多様な表現力を身につけることを目的とする三つの科目群を置く。その基盤の上に、日本専攻では日本に関する深い理解を獲得していく。まず専攻の学びを進める上で必要な日本語力を身につけるための特別科目「読解トレーニング」を置くと共に、三つの専攻科目群「日本の言葉と文化」「日本の社会と歴史」「世界の中の日本」を置いて、立体的で体系的な学びができるようにしている。そして、学問の基本姿勢と基礎を身につけ、課題発見力、総合力、関係調整力、コミュニケーション力を陶冶する場として、そして学びを将来の生き方に結びつけていくためのアドバイスの場として、入学から卒業まで継続的かつ段階的に展開される「演習科目」を配置している。

また、専攻での専門的で深く体系的な学びをもとにしつつ、専攻を越えた幅広く横断的な学びを組み合わせる中で、それらの力をさらに深めていくことができるように、自由選択の幅を大きく広げている。

現代教養学科国際専攻

現代教養学科では、現代に不可欠な教養を学ぶために、学科共通の「現代教養コア科目」を設置すると共に、各専攻に専門教育科目を設置している。

「現代教養コア科目」には、現代に生きる女性の課題を知り、共生のエートスを獲得し、多様な表現力を身につけることを目的とする三つの科目群を置く。その基盤の上に、国際専攻では世界の文化・社会に関する深い理解を獲得していく。まず専攻の学びを進める上で必要な英語力を鍛え上げるための特別科目「Introductory College English」「Intermediate College English」「総合英語基礎」を置く

共に、三つの専攻科目群「英語とコミュニケーション」「英語圏の文化と文学」「国際理解」を置いて、立体的で体系的な学びができるようにしている。そして、学問の基本姿勢と基礎を身につけ、課題発見力、総合力、関係調整力、コミュニケーション力を陶冶する場として、そして学びを将来の生き方に結びつけていくためのアドバイスの場として、入学から卒業まで継続的かつ段階的に展開される「演習科目」を配置している。

また、専攻での専門的で深く体系的な学びをもとにしつつ、専攻を越えた幅広く横断的な学びを組み合わせる中で、それらの力をさらに深めていくことができるように、自由選択の幅を大きく広げている。

現代教養学科人間社会専攻

現代教養学科では、現代に不可欠な教養を学ぶために、学科共通の「現代教養コア科目」を設置すると共に、各専攻に専門教育科目を設置している。

「現代教養コア科目」には、現代に生きる女性の課題を知り、共生のエートスを獲得し、多様な表現力を身につけることを目的とする三つの科目群を置く。その基盤の上に、人間社会専攻では人間と社会に関する深い理解を獲得していく。まず専攻の学びを進める上で必要な多角的な視点と総合力を身につけるための特別科目「人間社会研究」を置くと共に、三つの専攻科目群「人間の理解」「社会の理解」「環境と生活の理解」を置いて、立体的で体系的な学びができるようにしている。そして、学問の基本姿勢と基礎を身につけ、課題発見力、総合力、関係調整力、コミュニケーション力を陶冶する場として、そして学びを将来の生き方に結びつけていくためのアドバイスの場として、入学から卒業まで継続的かつ段階的に展開される「演習科目」を配置している。

また、専攻での専門的で深く体系的な学びをもとにしつつ、専攻を越えた幅広く横断的な学びを組み合わせる中で、それらの力をさらに深めていくことができるように、自由選択の幅を大きく広げている。

子ども学科

子ども学科では子どもを通して人間と社会を学び、教養ある大人として自らを育てることができ、しなやかな知性と豊かな感性を持ち、他者と共生し新しい生活と文化を創造できる人材の育成を目指している。そのためカリキュラムは、以下の4点から構成されている。

(1)人間理解を深め、感性を耕し、知的好奇心を育む「コア科目」、(2)専門ごとに学びを深める4つの領域「教育と保育」「こころとからだ」「福祉とケア」「芸術と文化」、(3)他の学生や教員との人格的交わりを通してものごとの本質を探究していく少人数制の「ゼミナール」、(4)子どもを含めたさまざまな人々とのふれあい、生活することから学ぶ「フィールドワーク」、またこれらのカリキュラムは、段階を追って発展的に学ぶことができるようにそれぞれが三段階に編成されている。保育者養成プログラムは上記カリキュラムに有機的に組み込まれている。また学びが複眼的になるように、豊富な選択科目を個々の学生がそれぞれ目的を

もって履修できるよう工夫しており、深い専門性と幅広い視野を同時に身につけることが可能なカリキュラムとなっている。